

寛政の改革

【かんせいのかいかく】

老中 松平定信が、1787～1793（天明7～寛政5）年に行った江戸幕府の政治改革。封建制がゆるんできた18世紀末、老中になった松平定信は、享保の改革を手本として幕府政治をたてなおそうとした。

儉約や武芸・学問を奨励し、ききん用の米の貯蔵、江戸の町費の節約を行わせ、農民の離村を制限して農村の復興をはかった。また、力の強くなった商人をおさえ、借金に苦しむ旗本・御家人をすくうため、棄捐令をだして借金を棒引きにさせたり、異学の禁を行って学問を統制し、出版や風俗の統制も行った。しかし、ときの流れにそわない面もあり、改革事業は7年で終わった。

- 幕末辞典 -